

## ヤリタナゴの保護と地元住民の支援に関して

ヤリタナゴを守る会  
会長 福田 耕一

### 1. 始に

2000年も押し詰まった頃私の実弟より岡之郷用水にヤリタナゴが棲んでいるとの情報が舞い込んだ。ヤリタナゴが棲んでいるのであればマツカサガイも棲息しているのではと早速兄弟で貝を探してみた。運が良かった為か、子供の頃から川で遊んでいた”感”が役に立ったのか目処を付けた場所に着いて直ぐにマツカサガイを二個体発見出来て興奮した。

弟は群馬県のレッドデータブック作成の為の調査の委託を受けている知人と、情報交換をしており、ヤリタナゴの発見の情報を入手出来た。

絶滅したとされるタナゴが発見された場所は兄弟で小さい頃から川遊びをしていた所なので、これを絶滅させる事は絶対出来ないとの思いで保護を目的とした会を作る経緯となった。

### 2. 会をスタートしてみたが

子供の頃遊んだ環境を夢見て、近所の農家の人や知人に声を掛けて、会を作ってみたものの、何をして良いのかが全く分からない状態に焦りを感じていました。

悩んだ末、棲息流域の水の管理に大問題がある事が川の様子を長期間観察して判明した。

農業用水は水利権が絡み、名前の通り農業をし易いような水の管理が優先されている。

人為的に作られた里山環境に守られて、古くから棲息していたヤリタナゴが今は逆に人に困ってその棲息環境が破壊されている。誰かが守らないと絶滅の危惧が予測される状況だった。

農家や神流川用水役員の方々の理解無しでは、ヤリタナゴが安心して棲める環境は作れない事がわかり、水産試験場の方に出前講座制度を利用して、地域の代表の方に集まってもらい勉強会を開いたりして、少しずつタナゴ生息と農業用水が両立出来る環境が整ってきています。

### 3. 地域や市民団体との連携

自然保護は誰がやっても良い活動だが、少数では効果が期待出来ないし長続きはしません。

又地元住民の理解無しには、良い結果が期待できません。

農家の方が水路を三面コンクリートにしないで、土掘りの用水路の草刈や堀浚い等面倒な作業を継続してきた為現在の環境が残ったわけで、その事の理解の上で保護活を進める必要があります。

### 4. 地元との連携効果

(1) 神流川用水の役員の方の協力

・堀浚いは従来、上流と下流の地区に分かれて別々の日にちに実施していたが、タナゴへのストレスを考慮して同一日に実施に変更した。(堀浚いは水を止めて作業を行います。)

・用水の水量維持の為何時でもタナゴが棲息し易い流量の水門操作に応じてくれています。

・用水の草刈は以前は慣習で水を止めて作業をしていたが、タナゴに影響無い程度まで水を流して作業を行う様に変更しました。

(2) 保護市民団体との連携

・ヤリタナゴ保護団体は、ヤリタナゴを守る会 ・ヤリタナゴ調査会 ・やりたなごの会と三団体が有るが各々の会の特徴を活かして連携しています。

私が代表のヤリタナゴを守る会は、主に地元農家の人や農業用水の役員との連携や川の管理を

ヤリタナゴ調査会は学術調査を前面に、やりたなごの会は矢場の環境水路の保全と、守る会と調査会の支援を主として活動し、三団体が上手く連携できています。

他にも群馬県水産試験場や群馬野生生物研究会等多くの方々への支援が有ります。

### 5. ヤリタナゴの理解を進める活動(PR)

広く皆様にヤリタナゴを知っていただく為に、参加型体験学習の場として毎年5月にヤリタナゴ観察会を開催しています。この観察会は藤岡市教育委員会後援でヤリタナゴ保護市民団体共同開催で行っています。毎年100名近くの子供が網を片手に川に入り、ヤリタナゴを捕獲観察しています。

安心して川遊びの出来る環境を今後とも提供出来る様活動出来る事が喜びです。

## 6. 圃場整備事業における環境変化とヤリタナゴ保護活動について

藤岡市でヤリタナゴの棲息が確認されてから、20年近く経過している中で、ヤリタナゴの棲息環境が大きく、変化していることがあります。

- 1) 矢場地区の圃場整備により、マツカサガイの生息域が田圃として整備されました。
- 2) 下戸塚地域のヤリタナゴとマツカサガイの生息農業用水が、圃場整備により古い水路が取り壊されました。他にも同じ様な事が、他にも起こっています。

## 7. これからのヤリタナゴ保護活動について

(下戸塚地域として)

### 1) 下戸塚地域環境保護協議会の設立

環境協議会として、水路の清掃や点検を通して、ヤリタナゴが棲める環境作りを進める。

### 2) 調査会・守る会と連携し新水路の環境実態の把握を行う。



水産試験場の出前講座で地区の区長さん等参加してヤリタナゴ勉強会



ヤリタナゴ観察会の一コマ

